

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 5月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	2272300571
法人名	医療法人財団 百葉の会
事業所名	グループホーム おとなりさん
所在地 (電話番号)	静岡県富士市五貫島 160-1 (0545-66-5500)

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年2月26日

【情報提供票より】(平成21年02月06日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 02 月 01 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.96 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造準耐火造り	
	1階建ての1階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	33,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(平成21年02月06日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.0 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	湖山病院 ・ 大松歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の湖山医療福祉グループは、全国で多くの老人医療・福祉分野の運営を行っており、法人の基本理念として「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を定めて活動している。このホームは設立して丸7年を迎えており、富士市内の湖山病院や隣接する老人保健施設「ききょうの郷」との連携の基に「自分らしく いきいき 暮らしたい」というホーム独自の理念を掲げ、利用者本位の介護を実践しており、入所待機者も10数名いる。運営推進会議は2ヶ月に1回着実に開催され、地域住民との交流も盛んである。ホーム独自の自治会への参加を検討し、更なる交流を図ることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の指摘6項目に対し、5項目が改善されていた。栄養バランスのみ、一度専門家の意見を聞くことをお願いしたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は全職員で分担して作成し、それを基に職員で議論し纏め上げた。更に具体的な改善に取り組んでおり、その成果が期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域密着型に介護保険法が改正されて以来、市・地域・NPO・家族・関係職員の出席の下、2ヶ月に1回着実に開催されている。会議ではホームの状況報告(行事実績・計画、主な出来事等)や参加者の意見交換等がなされ、サービスの質向上に活かしている。新年度の開催計画も、2ヶ月に1回の計画が組まれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、何時でも意見を聞き入れる態勢に有る。来訪時・電話・家族会・運営推進委員会等で意見をお聞きし、それらを運営に反映させている。年4回のホーム便りの他に、毎月1回利用者担当職員から手紙を出している。そこでは利用者一人ひとりの主だった日ごとの様子やその月まとめ等が家族に報告されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接の老人保健施設「ききょうの郷」と連動して各種の行事が生まれ、地域交流スペースもあり、こども110番の登録、ボランティアの受け入れ等を行い、地域の人達と利用者との交流を図っている。しかし、ホーム独自の自治会加入の確認は得られなかった。独自に自治会に加入することにより、多くの地域行事の情報を得たり、ホーム行事等を発信し、より緊密な関係作りをすることが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来(丸7年)の理念「自分らしく いきいき 暮らしたい…」を掲げ、地域密着型になってから運営方針⑥に、「地域住民との交流や地域住民の一員…」が謳われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内に理念を掲げ、ホーム会議でその重点を確認し合い、ケアプランに反映して実践するよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の老人保健施設「ききょうの郷」と連動しており、地域交流スペースの活用、こども110番の登録、ボランティアの受け入れ等を行い、地域の人達と利用者との交流を図っている。しかし、ホーム独自の自治会加入の確認は得られなかった。	○	独自に自治会に加入することにより、より多くの地域行事の情報を得たり、ホーム行事等を発信し、より緊密な関係作りをすることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己・外部評価の意義を十分に理解しており、前回の指摘事項については殆どの項目が改善されていた。今回の自己評価票作成においても、全職員で分担して議論し、更に具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法改正以来然るべき委員出席の下、2ヶ月に1回着実に開催されており、ホームの状況報告・参加者の意見交換等がなされ、サービスの質向上に活かしている。新年度の開催計画も、2ヶ月に1回の計画が組まれていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の呼びかけによるグループホーム連絡会が3ヶ月に1回開催され、連携を深めている。つい最近ではキャラバンメイト(認知症の理解を深める講師役)の職員により、家族会を兼ねて「認知症理解100万人キャラバン会」が開催され、好評を博していた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回のホーム便りの他に、毎月1回利用者担当職員から手紙を出している。そこでは利用者一人ひとりの主だった日ごとの様子(大体12～3日分)・まとめ・預り金残高等が報告され、家族に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口が重要事項説明書に明記され、来訪時・電話・家族会・運営推進委員会等で意見を聞き、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年1年の退職者は1名のみで、退職者・採用者について家族会や運営推進会議で伝えている。新人には特に「ゆっくりした行動・間を置いた声掛け」を指導しており、馴染みながら介護を受けられるよう指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人育成にはプリセプター方式(経験者との組み合わせ)を導入しており、併設施設の研修や内部研修には勤務時間を調整して積極的に参加させており、その記録もある。	○	更に願わくば、職員の資質・経験等に応じて習得必要項目に対するレベル分析等を行い、それに基づく年間研修計画の作成と実績評価が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催のグループホーム連絡会に参加し、交流会・交換研修が着実に開催され、同業者相互にサービスの質向上に取り組んでいる。また、法人内の研究会や交流会も実施されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントや家族・本人のヒアリングから利用者の状況を把握し、入所会議において何が不安か、何が疑問かを事前に話し合い、馴染みながらサービスが利用できるよう工夫している。具体的には、言葉掛け・テーブルの席順・耳の遠い人への配慮等がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントの情報は勿論のこと、日常の食事・入浴・トイレ等における対話を重視し、そこで語られたことを「生活記録」に記録して共有化し、共に過ごし、学び、支え合う関係を築く努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者の意向や希望を行動や表情から汲み取り把握し、「申し送りノート」に記録し職員間で共有している。本人の好みや意向を尊重して日頃のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や電話などで聞いた家族からの意向を尊重し、職員の意見や提案が書かれた「サービス担当者会議意見書」の記録と照らし合わせながら、それぞれの状態に沿って話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎のモニタリングで定期的に評価している。状況の変化がある場合は、その都度見直しをしている。職員は日常的に気がついた点を書き込み、それをホーム会議等で計画の見直しに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の老人保健施設「ききょうの郷」と連携しており、地域交流スペースがあり、そこでの利用者との交流やクリスマス会・コンサート・レクリエーション等、相互支援体制がある。看護職員による介護環境は整い家族の安心を得ている。また、通院送迎や買い物の付き添いも行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科医が月1回往診している。必要時には訪問歯科がきてくれる。入居前から特定の医師にかかっている場合は、希望する病院への受診が出来るように支援し、柔軟な対応を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合や看取りに関する指針について」の文書を作成するに至った。家族へはそれらに対応できる体制があることを説明している。家族と医師・職員全員で方針を共有する方向で進んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報の取り扱いについて細心の注意を払い、ホーム便りを作成する際にも写真掲載の了解を得ている。記録や資料も適切に保管されている。名前の呼び方や言葉掛けは、利用者の尊厳に配慮し一人ひとりの対応に気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・起床・就寝は本人のペースに任せていて、利用者一人ひとりに合わせた生活が出来るよう支援している。お天気がよければ散歩に行ったり、利用者が外に出たくない気分の時はテレビを見たり、編み物をしたり、小上がりの畳のスペースに腰掛けて話をしたりしている。食事もしっかり時間をかけるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じものを食べ、楽しく会話をしながらさりげないサポートをしている。食事を楽しんでもらうために、ベランダでの食事や季節にあったメニューも提供し、手作りおやつを職員と一緒に作ることもある。ごはんには麦としらたきを混ぜたり、献立に工夫がみられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で、入浴が苦手な利用者にも週3回は入ってもらいようにし、時間をずらしたり、清拭や足浴のみ行なう等、柔軟に対応している。季節により入浴剤を活用して入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量や希望に応じ、食事や洗濯物の手伝い等の役割を職員と共に行なっている。ボランティアによる催し物を見て歌って楽しんだり、編み物、居間でのテレビ鑑賞、また、日向ぼっこをしたり気晴らしできるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの状態や要望に応じて、月間の「行事予定」に基づき季節の花見や福祉展、家族との外食、隣接の老人保健施設に向き「音楽教室」への参加等の支援をしている。歩行が困難な利用者には車椅子を使って外出できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ドアにチャイムを取り付け出入りが分かるようにするなど、工夫をして鍵をかけないケアを実践している。職員は帰宅願望のある利用者を把握していて、外に出た場合は一緒に散歩するなど、利用者個々に合わせた対応をしている。また、ウッドデッキの中庭は自由に出られる構造になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行なっている。災害対策マニュアルや、緊急連絡体制も整備されていて事務所内の目立つ場所に掲示されている。しかし地域の人達との連携作りまでには至っていない。	○	地域に密着した事業所の取り組みを地域住民に理解してもらい、協力が得られるにすることが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日チェックして、一人ひとりの様子を把握している。10時・15時のティータイムや、食事時・入浴後など必要な水分を摂取できるようにしている。利用者の好みも取り入れ、調理の工夫や体調により食事の量等調整はしているが、食事全体の栄養バランスのチェックは見られなかった。	○	一度管理栄養士等の専門家による栄養バランスなどのアドバイスを受けることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は高い天井と広い廊下があり、広々とゆったりしていて居心地のよい環境が整備されている。窓も開けられ、換気は適時行なわれている。壁には利用者の創作品や写真などが飾られ、時計やカレンダーも見やすい場所にかけてある。昼の間もあり浴室前にも座れるコーナーがあって利用者同士が自由に過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室前の飾り棚には利用者の個性を生かした飾りつけがなされ、入り口にはのれんも掛けられ、自分の居室の目印としている。使い慣れた家具や家族の写真・愛犬の写真や花を飾り、落ち着いて過ごせる雰囲気となっている。		